

2. 平成 28 年度の取り組み概要

(1) 調査・モニタリング

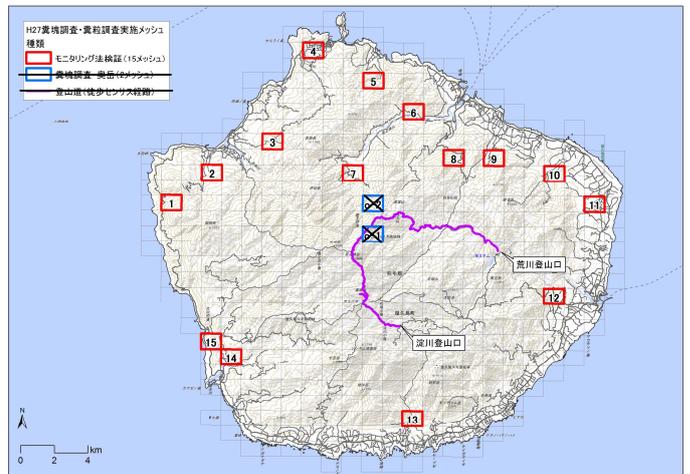
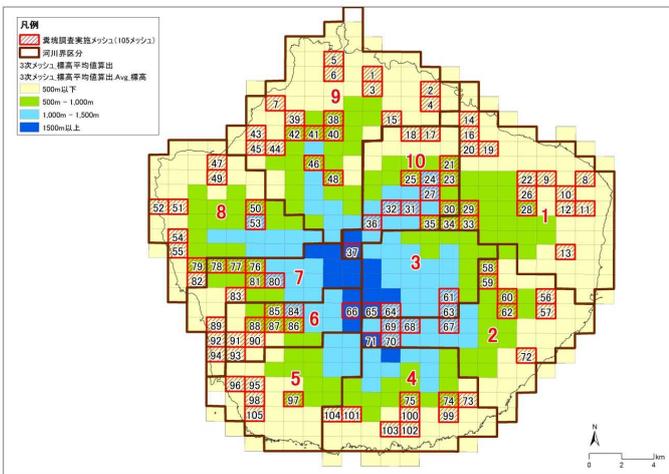
① ヤクシカの生息状況の把握【モニタリング ID9】

- ・ 生息状況調査（糞塊法全島 105 メッシュ）と糞塊密度分布の推定

平成 26 年度に実施した方法で、同時期に糞塊法による調査を実施して、糞塊密度分布の推定を行う。

- ・ 糞塊法調査結果と糞粒法調査結果の相関関係の分析等

また、15 地点程度で糞粒法による調査を実施し、他機関が行う糞粒法調査結果による全島密度分布推定に資するとともに、糞塊法と糞粒法による調査結果の相関関係について検証を行う。



② ヤクシカの捕獲状況の情報整理【モニタリング ID10 関連】

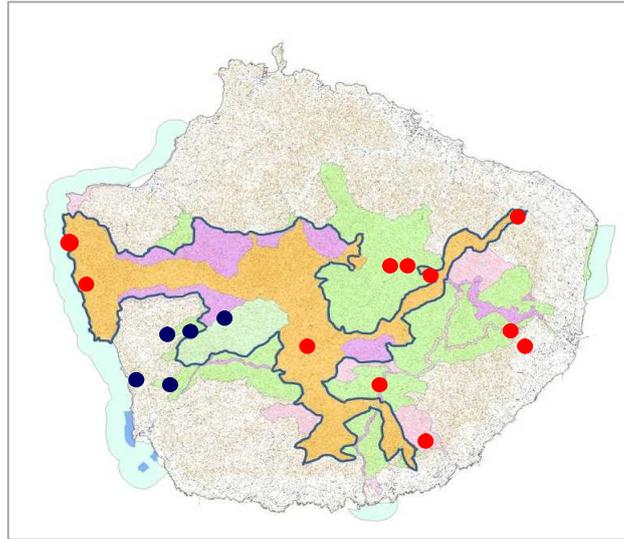
- ・ 有害捕獲情報の提供を受けて、1km メッシュの捕獲情報図を作成する。

③ 植生等への影響の把握

- ・ 植生保護柵内外の植生等調査【モニタリング ID11】

既設植生保護柵（14 箇所）で柵内外の植生、植物相等を調査する。

柵の大きさ	目的	地点名	コードラート数				備考
			毎木調査		下層植生		
			柵内	柵外	柵内	柵外	
1,000㎡ 超	植生回復	川原	1工区	3	3	12	12
			2工区	3	3	12	12
		半山	4工区	3	3	12	12
			5工区	3	3	12	12
			660m	—	—	4	4
1,000㎡ 未満	種保護	小杉谷	720m	—	—	2	2
			700m	—	—	2	2
			750m	—	—	1	1
			自然館前	—	—	6	6
		万代杉	—	—	6	6	
		小瀬田	—	—		初	
		安房	—	—		初	
		尾之間	—	—		初	
湿原植生保護	花之江河	—	—	8	8		



< 毎木調査 >

1,000 m²以上の植生保護柵について、植生保護柵内外に 10m×10m のコドラートを 3 地点ずつ設定し、胸高直径 5 cm以上の樹木について、種名、胸高直径、樹高、萌芽の有無及び萌芽食害の有無を記録する。

< 下層植生調査 >

1,000 m²以下の植生保護柵については、植生保護柵内外に過年度調査業務で設定されたコドラート (1m×1m) を設定又は対象に、下層植生の種名及び被度を記録する。

1,000 m²以上の植生保護柵については、植生保護柵内外に設定した 10m×10m のコドラート内に設定した 1m×1m のコドラートを対象に、下層植生の種名及び被度を記録する。

< 特定の希少種の生育状況調査 >

下層植生調査の際に、確認された希少種については、タグを付すなどして位置を特定し、生育状況の経年的なモニタリングを実施する。(モニタリング対象の希少種は、平成 24 年度屋久島における絶滅危惧種保護管理方策検討業務において、調査対象とされた 241 種)

・ 希少植物・固有植物の分布・生育状況調査【モニタリング ID12】

平成 23・24 年度に始めた希少植物・固有植物の分布・生育状況モニタリングの 2 回目を実施する。

調査実施箇所は、南部から北東部を中心に、第 1 回調査で継続してモニターすることとした調査区 (20m×20m) とヤクシカが好きなツルラン・ガンゼキラン等が確認されたその他調査区の計 50 箇所程度。

記録内容
草本層の優占種
草本層の植被率
定点撮影(近景・遠景)
調査対象種名
確認地点
個体数又は面積
全長
シカ採食による影響
食痕の有無・状況・程度等

また、本年3月に種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」に指定された種及び既指定種を対象に生育状況調査を20地点程度で実施する。

(2) 計画捕獲に向けた捕獲手法検討

① 林道におけるSS

- ・ヤクシカの計画捕獲実施に対する関係者の理解促進を図るため、森林施業等他の事業・活動との調整、シャープシューティング実施に関する技術面での課題や安全面での課題を抽出・整理するため、関係機関や学識者による現地検討会を開催する予定。

② 西部地域

- ・西部地域において、大型囲い罠による計画捕獲の実施を想定した捕獲手法や体制等について検討を行う。

(3) その他

① 植生保護柵の改修

- ・西部地域(川原)で、柵内に沢を含むため、悪天時の増水でたびたび破損する植生保護柵(3工区)の改修を行う。